

行政報告

第4回町議会定例会より「浦幌乳業株式会社施設の建て替えについて」ほか1件を報告します。

行政報告

浦幌乳業株式会社施設の建て替えについて

浦幌乳業(株)は、昭和63年の森永乳業十勝工場閉鎖に伴い、町と浦幌町農業協同組合が出資し、第三セクターとして設立されました。その後、平成22年4月には、町と浦幌町農業協同組合が保有する全株式を森永乳業(株)に売却し、森永乳業(株)が100%出資するグループ会社として操業しているところであります。

長年、製造施設及び設備等の老朽化による更新の必要性が課題となっておりましたが、この度、森永乳業(株)は、浦幌乳業(株)の昭和30年建設の木造施設ほかを建て替え、合わせてタンクローリー車から生乳を受け入れる設備と生クリーム製造ラインを一新する旨の報告がありました。

新製造施設は、鉄筋コンクリート造り一部3階建て、事業費は約20億

円を見込み、平成24年4月から1年をかけて工事を行い、平成25年4月から新製造施設での操業が見込まれており、これに伴い、年間生乳処理量は、現在の8万トンから、将来的には10万トンまで増量したい考えがあるとのこと。

この度の改築計画が決定したことは、森永乳業(株)の道内3大拠点の一つとして設備が更新され、永続的な経営と雇用の増大が見込めることになり、本町の畜産の振興のみならず、関連する産業全般の振興が図られるものであり、森永乳業(株)の決断に感謝するとともに、これまで事業を継続していただいた皆様にも改めて感謝申し上げます次第であります。

以上、浦幌乳業(株)の施設建て替えについての報告いたします。



施設の建て替えが決まった浦幌乳業

行政報告

浦幌町養護老人ホームのロースクの不始末による小火について

平成23年12月10日、午後0時20分頃、火災警報器が作動したので介護

職員が現場を確認したところ、ホーム南側C棟居室13号室から火災が発生したのを発見し、即座に居室内の洗面台から水を汲み火元に投下するとともに、消火器による消火活動を行い、午後0時36分頃鎮火いたしました。出火原因につきましては、入所者が、火気の使用禁止となつて居る居室内において、無断でロースクを使用し、本人が目を離した際にロースクが倒れ、付近の掲示物や段ボールなどの可燃物を燃焼させたものです。被害の状況につきましては、居室のクロス壁1メートル四方を焼け焦がしたのをはじめ、衣類等を焼すなどの被害がありました。幸い、本人をはじめ他の入居者は音声警報により避難し、人的被害は一切ありませんでしたが、重大な事故になりかねない事態を重く受け止め、お詫び申し上げますとともに、今後も細心の注意を払いながら運営を行ってまいりたいと考えております。

なお、火災をはじめ地震などの自然災害などによる入所者の安全対策につきましても、あらためて関係機関との連携を強化するなど、万全の対策を図ってまいりたいと考えております。

以上、養護老人ホームにおける小火についての報告いたします。

INFORMATION

日曜救急当番医院

2月

診療時間は10時から16時までです。急患に限ります。

○5日、19日

多田医院

○12日、26日

町立診療所

※都合により当番医は変更になる場合があります。

消費生活相談

2月

毎週火曜日に消費生活相談室を開設しています。

○毎週火曜日

10時～12時

13時～15時

○専用電話

(Tel 576 - 4330)

○浦幌中央公民館

1階小会議室

■役場町民課町民生活係 (Tel 576 - 2113)

人のうごき

12月31日現在

○人口 5,556人 (-4)

男 2,637人 (-7)

女 2,919人 (+3)

○世帯数 2,435戸 (-5)

○出生 5人

○転入 10人

○死亡 6人

○転出 13人

○1年前の人口 5,684人

※()内は前月比

交通事故発生状況

12月31日現在

○発生 6件 (-8)

○死者 0人 (-3)

○傷者 7人 (-10)

※数字は平成23年1

月1日からの累計

※()内は前年比

事故死者ゼロ

550日



皆さん「うらほろスタイル」ってご存知ですか？
浦幌にある素晴らしい景色や物や人、そして社会を支える町の産業の魅力を町内の小中学生が学校の授業の中で学び、子どもたちが主体的に地域や社会に対し考え、想い願うことをきちんと地域の大人たちが聞き、実現させていくことで、夢と希望が抱ける町を作ろうと官民一体となって取組んでいる事業、それが「うらほろスタイル事業」なんです！今月の町広報誌から不定期ではありますが、この取組をご紹介しますことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。まず初回の今月号では、取組の大きな柱である子どもたちの想いを形にしていく「子どもの想い実現事業」の取組についてご紹介いたします。

◆ 過去に子どもたちの想いが形になった例 ◆



道の駅の看板、スタンプ、倉庫、商品パッケージやぬいぐるみ、着ぐるみ等、観光協会や町内の事業者が現在使っている町のキャラクター「ウラハとホロマ」もきっかけは子どもたちの提案がはじまりでした。また商工会青年部の事業である「こども祭り2011」で登場した「流木アート」や、道の駅限定販売の「浦弁」もこれまで形になったもののひとつです。他にも小学5年生の提案がもとで「うらほろ食のプロジェクト」と元コンサドーレ選手曾田雄志さんの協力で実現した東北被災地への農水産物の送付などもその一例です。

新しい実現の形！～給食のメニューに採用！



平成21年の浦幌中3年生が考案した厚内産タコと昆布を作ったご当地メニュー「タコんぶライス」が2月より学校給食メニューに採用されました。

給食センターのバックアップと飯田華奈子栄養教諭（右）の試作品研究等のご尽力があって実現しました！ 感謝！！



事業の新たな推進力が始動！

「うらほろスタイル」の取組がスタートし5年。これまでの子どもたちの提案や、これから出てくる地域に対する子どもたちの願いを形にしていくため、定期的にワークショップを開いていくことになりました。多くの皆様のご協力をお願い致します。



ワークショップを運営するプロジェクト座長の高室智全さん（左）、副座長の北村昌俊さん（右）